

関東アコーディオン演奏交流会 No.5

実行委員会ニュース

ホームページ <http://www.kanto-acco.jp>

2013.8.20 発行

ニュース担当者

乙津・小神・仙仁・田代

第 25 回関東アコーディオン演奏交流会

出場申込み状況	♪ジュニアの部 (5 名)	♪初心者 A の部 (5 名)
合計 64 名	♪初心者 B の部 (8 名)	♪シニアの部 (15 名)
	♪一般中級の部 (25 名)	♪一般上級の部 (6 名)

本番は 9 月 16 日(月・祝)北区滝野川会館です

★皆様、お誘いあわせの上是非聴きに來てください！ (10 時開始)

＜出場者の皆様へ＞

★部門別の出演順は抽選により決定させて頂きました。結果は、全体の進行表が決まり次第練習室と使用時間などを含めて実行委員会より別途出場者宛に郵送の予定です。

(一週間前になっても届かない場合は事務局に連絡ください)

★楽譜の提出締切りは8 月2 6 日 (月) です。ご協力ください！ (提出部数は1 1 部です)

特別審査員「篠田元一」氏 (Motokazu Shinoda) の紹介

大学在学中に自己グループにてレコード・デビューを果たしプロの道へ。その後は自己の音楽制作事務所モトミュージックを拠点に幅広いジャンルの楽曲提供／音楽制作を手掛けている。

『PIVOT』(zizo)、『Floating Colors』(日本コロムビア)、『Foresight』(COOL SOUND)と3枚のソロ・アルバムを発表。ジャズ、クラシックなどのジャンルを超えた鮮烈かつ斬新なサウンドで高い評価を得る。ピアノ／キーボーディストとしての演奏活動では、自己のユニットThprim (スプラ임) 〈2 枚のアルバム・リリース〉などでのライブ活動の他、富田勲『源氏物語』『イーハトーヴ』などの国内外公演においても名門オーケストラとの共演やレコーディングに多数参加。加えて『実践コード・ワーク』をはじめとする記録的なベスト・セラー、ロング・セラーを誇る音楽書籍も多数執筆している。日本シンセサイザー・プログラマー協会理事

web サイト <http://www.moto-music.co.jp/>



目次	■出場申し込み状況／特別審査員「篠田元一」氏の紹介…1	■尺八＆アコと人生「佐藤
	■議事録より／参加協力券の普及を／次回実行委員会日程…2	■和田道雄リサイタル…7
	■正助氏」…3～4	■横浜アコ、被災地交流／曲集紹介…5～6
	■JAPC 夏祭り…8	■群馬アコセンターニュースより…9～10
		■ホワイトボード…11～12

■7月28日(日)エテュカス東京にて、18:00より第5回実行委員会が開催されました。

【参加者:塚本、築山、宇野、仙仁、橋本、東谷、北村、山口、池田、田代、乙津、木下そんき(講師懇談会)、他に第4回東北アコーディオンジャンボリー実行委員長の遠藤勇さんが出席され、お礼とその後の報告があり最後まで話し合いに参加されました。】

■8月11日(日)エテュカス東京にて18:00より抽選会を行い、引き続き第6回実行委員会を開催しました。【参加者:塚本、築山、佐々木、仙仁、橋本、東谷、岡田、北村、山口、大淵、池田、田代、乙津】

《議事録より》

見学者による評価について…ここ数年出場参加者が減少傾向にあることから、お客さんはどのように見ているのか、どうしたら出場者並びに見学者が増えるのか、お客さんも参加できないか、など話し合う中で、“何か新しいことをやってみたら”と検討してきましたが、出場者に周知されていないことや、やり方の問題でもさらに討議が必要だと判断し、今回は実施しないことに決め、演奏交流会終了の9月以降、関東アコのあり方を話し合う中で討議することになりました。

実行委員会からお願い

参加協力券の普及にご協力を！

今年度も「ジュニアの部」から「一般上級の部」まで合計64名の方がエントリーされました。当日は、午前10時から素晴らしい演奏がくり広げられます。アコーディオンを練習されている方だけでなく、その周りの方たちにも是非聴きにきていただきたいと思っています。

また、ゲスト演奏者にアコーディオン弾き語りの「オラン」さん、ギター奏者の江森孝之さんをお呼びしております。ゲスト演奏も楽しみの一つです。是非お友達を誘って聴きにきて下さい。

♪ 学びあうためのコンクール ♪

第25回 関東アコーディオン演奏交流会

9月16日(月・祝) 10:00～北区滝野川会館

独奏部門：ジュニアの部、初級者Aの部、初級者Bの部、

シニアの部、一般中級の部、一般上級の部

ゲスト演奏：オランさんと江森孝之さんのデュオ

見本



参加協力券

1000円

未・済

お名前

扱い者



料金は1,000円です ★問合せ先 042-362-2579(築山Tel&Fax)

よろしく

044-877-9871(塚本)E-mail tsuka@mrg.biglobe.ne.jp

■ プログラム等印刷作業日のお知らせ

日時：9月1日(日) 午後2時～ 場所：川崎市市民活動センター(武蔵小杉駅徒歩3分)

■ 次回実行委員会のお知らせ

日時：9月1日(日) 午後6時～ 場所：川崎市市民活動センター(8会議室)

注記：印刷作業の進捗状況によっては、会議開始が早まる可能性があります(5時から使用可)

尺八と人生…この人にインタビュー《第 15 回》「佐藤^{まさすけ}正助さん」

今回は、東北アコーディオンジャンボリーで取り組んだ合同合奏「ジュピター」の中で 4 分間の素晴らしい尺八のソロ演奏をされた「佐藤正助」さんを紹介いたします。佐藤さんは「アコ・ネットふくしま」のメンバーの一人としてアコーディオンも練習されています。東北アコーディオンジャンボリーつながりで尺八という楽器のお話を交えて音楽への想いを寄せていただきました。

◎山形県米沢市(上杉鷹山、直江兼続ゆかりの米沢城のすぐ近く)で生まれ育ちました。米沢市の山形大学工学部を卒業して高校の教師として福島県に赴任しました。現在 68 歳です。



↑ 米沢城(堀)の冬景色(この近くで生まれた)

アコとの出会いの方が先でした

アコとの出会いは 26 才頃で、東京に行った時は、喫茶店、「どん底」、「カチューシャ」、「ともしび」でロシア民謡に夢中になりアコの演奏にしばれました。

仙台の学生時代にアコを弾いていた友達に習いましたが、そのうち尺八と民謡(歌)のレッスンを本格的に受けるようになりアコからは遠のきました。また、歌うことといろんなジャンルの音楽を聴くことは大好きでしたが、楽器はエレフーンを一年習って挫折しました。

試しに吹いてみたら一回で音が出た

尺八との出会いは 33 才の頃です。妻の父が以前使っていたものを試しに吹いてみたら一回で音が出て、それでやってみようと思ったことにあります。なかなか音が出せないというのが愛

好者が増えない最大の理由です。どこにむずかしさがあるのでしょうか。

尺八は難しいという先入観にとらわれて、過剰な意識が唇や頬に集中して緊張感を高めてしまいます。それに、「尺八は吹いて鳴らすもの」という意識が当然働き、鳴らないと余計に強い息を吹きかけて、力めば力めほど噪音、雑音になっていきます。

悪い癖がつく前に個人レッスンを受けた

私がいろいろな音の出し方ができるのは、悪い癖がつく前に、日本でも有名なプロの演奏家に個人レッスンを受けたからです。このとき徹底的にたたきこまれたのは「尺八は吹くものにあらず、吐くものなり」ということでした。「吹く」という動作はどうしても顔面に力が入り、その反作用で腹筋を使わなくなり、その結果音が割れてしまうわけです。「吐く」という動作は、人間の日常の自然な行為、すなわち<呼吸>です。「吹いて鳴らす」という<常識>にとらわれないことが人間、とても難しいことかもしれません。

吸った息を腹筋で支えて「ため息」を当てる

「しっかり吸った息を腹筋で支え、もらすため息を歌口にやさしく当てれば良い」と教えられました。すると、ボーと心地よい響きの音が出てきます。もう一つの練習法としては、ビールビンの口に同じ理屈で息を当ててやる練習法です。これは、尺八は難しいという先入観から逃れる方法です。ビールビンなら誰でも音を出せます。しかし、ここで尺八に挑戦するのは早いのです。ビールビンでも大きく力強く響かせるのは簡単ではありません。口の中を大きく広げ、喉を広げ

て身体全体がスピーカーボックスだと思って響かせるのです。「息を出して、音波を吸い込みなさい」と指導を受けました。これは声楽の発声法に共通するのではないのでしょうか。

アコーディオンでも同じことが言える

アコーディオンに置き換えても同じことが言えるような気がします。蛇腹で音を出そうという意識が先走ると肩に力が入って疲れます。姿勢を良くしてリラックスし、歌いながら、それに合わせて呼吸しながら蛇腹操作をすればいいわけですね。アコは尺八のキャリアの5分の1しか積んでいないので、まだまだ無理な力をかけてしまいます。それで肩がこり、腕の付け根が炎症をおこしました。一番難しいのがベローイングだと言われている意味がとっても理解できます。尺八への息の吹き込み方をアコのベローイングにどう生かすかが課題です。

尺八演奏において音の強弱、ビブラート、スタッカート、メリハリなどは、すべて息でコントロール

します。これを蛇腹でやるのがアコということになります。

あきらめないでやってきたかいがあった

尺八とアコという構造も奏法も異なった楽器を平行して練習するのは大変ですが、このように共通する点が多いことが分かるにつれてなんとか統一的に考えてやろうと続けてきました。その結果が今度の東北アコジャンボリーでの実現となりました。「頑張らない、あきらめない」をモットーにやってきたかいがあったと思っています。

= 次号に続く =

写真は、昨年 11 月 14 日仙台市広瀬文化センターで開催された、第 1 回目の「ジュピター」レッスン会で演奏された時のスナップ



《文責:乙津》

♪コーヒータ임…子供に人気の「手のひらを太陽に」～漫画家やなせたかし～♪

1960 年代、漫画の仕事は更に減りその頃は精神的にかなり追い込まれていたと言う漫画家やなせたかしのエピソードを、スクラップの中から紹介します。

以下は、日本経済新聞 2011 年 8 月 3 日夕刊「このころの玉手箱」やなせたかし (3) より転記。

テレビやラジオの脚本執筆、舞台の仕事で収入は安定してきたが、肝心の本業の漫画が全く振るわない。「僕は何者なのだろう」。寒い冬の夜、仕事場でランプの電球に手をかざした。血の色で真っ赤だった。「ああ、生きているんだな」となんだか感動してしまった。

「手のひらを太陽にすかしてみれば」のフレーズが浮かび、歌詞を一気に書き上げた。いずみ

たくに作曲を頼むと、バイオンのリズムのヘンテコなメロディーがあがってきた。宮城まり子が歌う「手のひらを太陽に」を番組で何度か流した後早々と放送をやめた。

ところが、である。1年後の 62 年、NHK が「みんなのうた」に採用。これを契機に小学校の教科書に載り、全国の小学生が好んで歌いだした。

大人のためにつくった歌なのに、なぜか子供達に受けが良い。後に発表するアンパンマンのテーマソングも幼い子向けに書いた歌詞ではないが、自然と子どもの歌になった。

どうにも僕には不思議な特性がある。「手のひらを太陽に」で初めて気づき、人生の歯車が回り始めた。

